

カザグルマ

Clematis patens C.Morren et Decne

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

環境省：準絶滅危惧

被子植物門 双子葉類 離弁花群

キンポウゲ科

選定理由

林床が攪乱を受けやすい夏緑樹林内に生育する種類であるが、人の森林管理によっても維持されてきた側面があるため、管理停止や攪乱が少なくなったことが原因であるとともに、栽培種としての価値が高いことの両面から、急激に減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事、土地造成、業者・マニア採取、自然遷移

分布状況

旧御津町（岡山市）、高梁市、奈義町などの岡山県北中部を中心に分布するが、非常に少なくなった。花が目立つため、花期には明るい林内で開花することが観察される。県外では本州、四国、九州に分布する。

生育情報

林縁や明るい林内に生える夏緑性のつる性の低木。茎は褐色で木化する。葉は羽状複葉。小葉は3～5個、長さ2～6cmで卵形、時には3裂するが鋸歯はない。今年伸びた枝に1～3対の葉をつける。花は1個頂生し、上向きに完全に開き、径7～12cm。花期は5～6月。がく片は8枚、淡紫色または白色、狭倒卵形。果実はそう果で、広卵形、長さ5mm。湿り気の多いところを好み、湿地にも生える一方、蛇紋岩地帯にも見られる。

特記事項

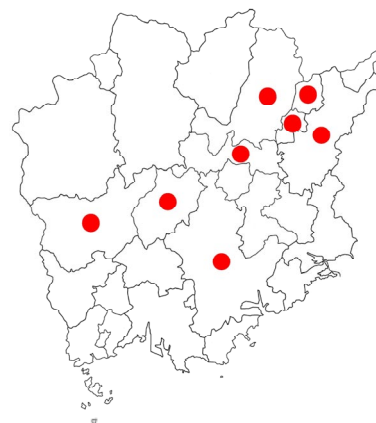
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

文献番号 121, 129

(西本孝)



撮影：狩山俊悟



ツクシクサボタン

Clematis stans Siebold et Zucc.
var. *austrorjaponensis* (Ohwi) Ohwi

岡山県：準絶滅危惧

環境省：該当なし

被子植物門 双子葉類 離弁花群

キンポウゲ科

選定理由

名前の由来のように、国内では四国、九州に分布するが、岡山県では石灰岩地を中心に隔離分布しており、分布の北限となっている。人為的な管理下にあった森林が管理放棄によって遷移したことにより減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

新見市、旧哲多町（新見市）などの岡山県北中部の石灰岩地を中心に分布するが、希である。県外では四国、九州に分布し、岡山県内のもは分布の北限にあたる。

生育情報

山地の草原や林縁に生える多年草。茎は直立してつるにならず、高さ1m位になる。茎の下部は木質化するが、冬大部分が枯れても下部は残る。葉は対生し、長柄のある3出複葉。茎の先や葉腋に集散状に多数の花を下向きにつける。クサボタンに似るが、花糸が葯の2～3倍の長さ、葯は長さ約3mmある。花期は8～9月。花にはすべて雄ずいと雌ずいがあるが、両方ともに機能があるとは限らず、雄花と雌花に分化していることが多い。

文献番号 121, 129

(西本孝)



所蔵：倉敷市立自然史博物館

